



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第65回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

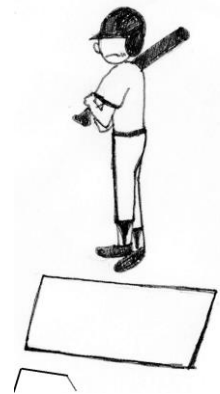
マナー編 サインを見る際に打者席を離れる

打者がベンチからのサインを確認する際、いちいち打者席を外しているケースがあります。球審が都度注意しているようですが、ルール上は問題ないのでしょうか。

打者がベンチからのサインを見るため、打者席(バッタースボックス)を離れる行為があった場合、球審は打者席からサインを見るよう打者に指導しています。もちろん、その指導は野球規則5.04(b) 打者の義務「(1) 打者は自分の打順がきたら、速やかにバッタースボックスに入って、打撃姿勢をとらなければならない」に基づくものです。一方、投手も同様に、野球規則5.07(c)「(1) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること(2) また、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につくこと」により遅延行為が禁止されています。

打者、投手ともこれら規則により試合をテンポよく進める義務を負っていますが、校内の練習試合では他の部活動とグラウンドを共有することや、公式戦では一つの競技場を使って複数試合が組まれていることを考えれば、守備側、攻撃側とも試合を不要に停滞させる行為は、厳に慎まなければなりません。

自分たちの試合だけでなく、他の関係者(他の部活動の部員、次試合の選手、試合終了後のグラウンド整備担当者、遠方からの応援者他)も考えれば、自ずと試合に臨む姿勢も変わってくるでしょう。。



ルール編 打者が捕手の守備を妨害する 第88回選抜高等学校野球大会より

第88回選抜高等学校野球大会において、無死一塁フルカウントから走者が盗塁、打者はボールと思って見送り一塁へ駆け出したものの、球審はストライクの判定をしていました。打者は三振に気付かず打席を離れた際に捕手の二塁送球を邪魔したこととなり、捕手はうまく二塁へ送球できなかった。結果、盗塁した走者は二塁で「セーフ」の判定を受けていましたが…。

本ホームページの「高校野球のマナーとルールを学ぼう」は2011年1月に始まりました。その第1回、第2回で紹介した事例は、「打者が捕手の守備を妨害した」ときの措置でした。

今春の選抜大会において、残念ながら打者が捕手の守備を妨害したとして処置された事例が2例発生しました。この時には、同じ事象を二度と発生させないために球審は、アウトになってベンチ付近まで戻っていた打者を打者席まで呼び戻し、正対して指導を行いました。

妨害した打者はアウト、既にアウトを宣告された打者が妨害した場合は、守備の対象となる走者にもアウトが宣告されるという、自らの妨害でチャンスを終わらせるという結果しか招きません。

詳しくは、第1回、2回で紹介(注: 2016年野球規則は6.03 a (3)を参照)していますので、是非とも再確認してください。

